

**平成 2 9 年度**

**青森県学習状況調査 (29. 4. 18 実施)**

**結果と考察**

青森市立大野小学校 第 5 学年

平成 3 0 年 1 月

## 青森県学習状況調査 結果と考察

平成30年1月  
青森市立大野小学校 第5学年

- 1 実施日 平成29年度8月30日(水)
- 2 実施教科 4教科(国語・社会・算数・理科)
- 3 実施人数 5学年(国語・社会・算数・理科) 104名(未験者 2名)
- 4 実施結果 (県通過率と本校の比較)

教科	27年度通過率	28年度通過率	29年度 県通過率	29年度 市通過率	29年度本校通過率 ( )内は県との比較
国語	58.5%	66.3%	55.2%	56.2%	56.8% (+1.6)
社会	60.3%	60.5%	64.3%	66.3%	69.8% (+5.5)
算数	73.3%	62.7%	52.2%	54.0%	60.6% (+8.4)
理科	72.9%	69.5%	60.3%	61.9%	63.1% (+2.8)

### 5 考察

国 語	<p>県の通過率を上回った問題の割合が21問中13問(61%)という結果になっている。通過率を大きく下回った問題は、「資料から必要な情報を集め、条件に合わせて情報を整理して書くことができる。」である。複数の条件を全て満たすことができない誤答が多かった。</p> <p>今後は、「書くこと」の領域の指導においてだけでなく、授業の中のいろいろな場面の中で、複数の条件を与えて書くことに慣れさせたり、全ての条件が満たされているかを自己評価させたりするように指導することが大切である。</p>
社 会	<p>県の通過率を上回った問題の割合が27問中22問(81%)という結果になっている。通過率を下回った問題は、「問題文に示された予想を確かめるために必要な資料を想起し、表現することができる。」などである。</p> <p>今後は、資料から事実を正しく読み取る指導に加え、児童の問いや予想を重視して追求意欲を高め、その活動の中で必要な資料を見つけさせたり調べさせたりし、それを元に予想の根拠を述べさせていくように指導していくことが大切である。</p>
算 数	<p>県の通過率を上回った問題の割合が27問中24問(88%)という結果になっている。通過率を下回った問題は、「辺や面のつながりや位置関係に着目して立方体を構成している。」などである。</p> <p>今後は、図形の性質を理解する際には、学習の系統性を意識するとともに、具体物を用いて作業的・体験的な活動を多く取り入れ、その理解が実感的なものとなるよう指導の充実を図りたい。</p>
理 科	<p>県の通過率を上回った問題の割合が28問中18問(64%)という結果になっている。通過率を下回った問題は、「気温は、測る時刻や場所によって異なることを理解している。」「ロウの溶ける順番を金属の温まり方と関係付けて考え、表現することができる。」などである。通過率を大きく下回ったこの2問は、どちらも観察・実験の方法や結果の理由を記述で述べる問題である。</p> <p>今後は、目的に沿った観察や実験の方法を児童に考えさせるための学習活動の工夫が大切である。また、問題解決の過程の中で、身の回りの事物・事象や既習事項を想起させながら予想させたり、考察させたりする場面を多く設定していくことが大切である。</p>

## ◇分析と対策

### 【国語】

- 3二 委員会の【お知らせ】の中のお願いを書くことを求めている問題である。その条件として、【組み立てメモ】の内容と合うように書くことと字数の制限がある。字数の制限は守れている。しかし、【組み立てメモ】の3つの内容を全て書かなければ正答と見なされないが、1つ目、2つ目の内容は書いているが、3つ目の内容を書いていない誤答が多かった。3つ目の内容だけが文が長く、「～ので、～呼びかけるように書く。」という文になっている。「～ので」の部分を省いてしまった児童が多かった。「何を」呼びかけるのかが伝わらない文章になってしまった。
- 4二 文中の内容と同じ関係になるように図の中に矢印を書くことを求めている問題である。図1の矢印と文中の内容との関係を読み取る力と、図2に係わる文を見付け読み取る力が必要になるが、文の内容と図を関係付けて読むことができない児童が多かった。
- 5一 一文を二文に分けて書くことを求めている問題である。「～ては、～している」という言い回しが分からず、内容を的確に2つに分けることができなかった。
- 三 (1) 人柄を表す言葉を考える問題である。2つの根拠と関係のある人柄を考えなければならないが、根拠との関連のない誤答が多かった。
- (2) 音読の工夫とその理由を述べる問題である。工夫については、選択肢があるので、書くことができているが、理由については、人物の心情を正しくとらえてければ正答にはならない。長い初見の文章から人物の心情をとらえる力が弱い。

- ・「書くこと」の指導では、複数の資料を読み取り、それらを関係付け、条件に合わせて書く力の育成が必要である。他教科等の学習や生活に関係付けながら、明確な相手意識や目的意識をもたせて課題を設定した授業を行うようにしたい。
  - ・「読むこと」の説明的な文章の指導では、文中の「この関係」や「この場合」などの言葉が指し示す部分はどこなのかを明確にしたり、文と図を相互に書き換えさせたりしながら、内容を的確に読み取らせるようにしたい。
  - ・「読むこと」の文学的な文章の指導では、各場面に描かれた登場人物の行動や会話などに即しながら、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえて読み、複数の描写を関係付けて読ませていきたい。
- 音読で表現するときには、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化を捉えさせ、自分のもっている知識や経験等と結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができると思われる。

### 【算数】

- 1 (3) 1a(アール)の広さを選択する問題である。1aが、1辺10メートルの正方形の面積であることを理解していれば、正しく選択できる。普段あまり使わない単位なので、定着していない児童が多かったと思われる。
- 7(2) 立方体の展開図に関する問題である。底面や1番下の正方形でのリボンのかかり具合を間違ったり、書けなかったりした誤答が多いことから、辺や面のつながりや位置関係に着目して立体図形から展開図をイメージする力が身につけていないことが考えられる。

- ・面積や体積の単位の学習では、実感をとらえさせるような体験的な学習を取り入れて指導をしていく。また、他の領域の学習の中でも関連させて取り上げていくようにし、定着をはかりたい。
- ・「図形」では、立体図形辺や面のつながりや位置関係に着目し思考・判断する力が十分とは言えない。今後は、既習内容を関連付けて論理的に考察する活動や、図をかいたり読み取ったりする活動を取り入れた授業を計画的に行うようにしたい。

## 【社会】

- 6(1) 青函トンネルにつながっている半島名を問う三択問題である。誤答の原因としては、青森県の地名を覚えていないことが考えられる。
- 8(3) 「気候の様子分かる資料」を問う問題である。誤答の原因として、無答を含め、誤答が多岐に亘っていることから、気候についての具体的な意味を正しく理解していなかったことが考えられる。
- 9(3) 「赤道を通る」「オリンピックが開かれた」の2つの条件から国名を問う問題である。誤答の原因として、世界の主な国々の位置と名前を覚えていなかったことと、オリンピックのような世界の情勢に目が向いていなかったことが考えられる。

- ・青森県内の主立った市町村、山、川、湖、半島、面している湾などの名前と位置をしっかりと覚えさせていく。
- ・「気候」の具体的な意味として、気温、降水量、「資料」の具体的な意味として、グラフ、表、写真、絵、地図、年表、図、インタビューなどを普段の授業で意識して言語化し、言葉の意味を定着させる。また、仮説を立て、必要な資料を選ばせるような体験をさせていく。

## 【理科】

- 2(1)② 誤答の原因として、「場所」もしくは「時刻」のみに触れた記述が多いことから、気温は場所や時刻の要因によっても変化するという知識が十分身に付いていなかったことが考えられる。
- 4(1) ロウの溶ける順番を金属の温まり方と関係付けて考え、表現する問題である。「わけ」を記述で表現できない子が多かった。
- 4(2)② 水の温まり方を説明する問題である。記述での説明のため、無答や説明がうまくできない誤答があった。
- 5(2) 星座の動きについて（ ）の中に合う言葉を考えられない誤答が多かった。
- (3) 誤答の原因として、「エ」とした誤答が多いことから、月は南の方に見えるという知識はあるものの、方位磁針を操作して方位を調べる技能の定着が十分ではなかったことが考えられる。

- ・方位磁針や温度計などの観察・実験器具は、その器具を使用する単元の学習で指導するだけでなく、できる限り児童が日常的に手に取れるように環境を工夫し、繰り返し使用させることで技能の定着を図りたい。
- ・記述式の問題で無答を含む誤答が多かったことから、観察・実験の結果から自分なりに考察をまとめる力を付けていくことが大切であると思われる。授業の中で、観察・実験結果について話し合ったり自分の考えを書いたりする時間を十分に確保していきたい。